

**製品名: PAX5 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM81161**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	45kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PAX5
別名	BSAP
遺伝子 ID	5079.0
SwissProt ID	Q02548
免疫原	大腸菌で発現したヒト PAX5 (AA: 235-382) の精製された組み換え断片。

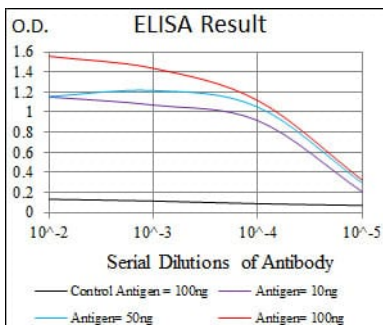
**背景**

この遺伝子は、転写因子のペアボックス (PAX) ファミリーのメンバーをコードしています。この遺伝子ファミリーの中心的な特徴は、ペアボックスとして知られる、新規で高度に保存された DNA 結合モチーフです。PAX タンパク質は初期発生の重要な制御因子で

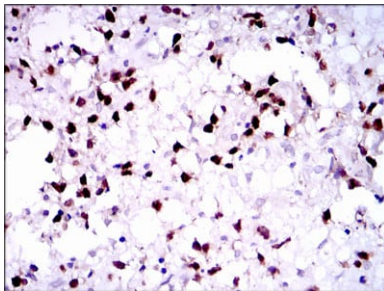
あり、その遺伝子発現の変化が腫瘍性形質転換に寄与すると考えられています。この遺伝子は、B細胞分化の初期段階で発現しますが、後期段階では発現しません。この遺伝子の発現は発生中の中枢神経系および精巣でも検出されているため、コードされているタンパク質は神経発生および精子形成にも役割を果たしている可能性があります。この遺伝子は9p13に位置し、形質細胞様サブタイプの小リンパ球性リンパ腫および派生大細胞リンパ腫で再発するt(9;14)(p13;q32)転座に関与しています。この転座により、IgH遺伝子の強力なE- $\mu$ エンハンサーがPAX5プロモーターの近傍に位置するため、この遺伝子の転写調節異常がこれらのリンパ腫の病態に寄与していることが示唆される。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されているが、それらの生物学的妥当性は未だ確立されていない。

## 研究分野

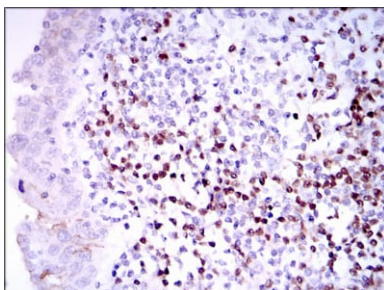
## 画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng); 紫線: 抗原 (10 ng); 青線: 抗原 (50 ng); 赤線: 抗原 (100 ng);



PAX5 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト脳腫瘍組織の免疫組織化学分析。



PAX5 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト子宮内膜癌組織の免疫組織化学分析。